

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス宜野湾教室			
○保護者評価実施期間	令和 7年 3月 15日		～	令和 7年 3月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0
○従業者評価実施期間	令和 7年 3月 15日		～	令和 7年 3月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 3月 15日		～	令和 7年 3月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)	0
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学校、ご家庭、事業所等と連携して児童の特性に合わせた支援をしており、児童が困っている場면을観察し支援できる体制を整えている。また、ご家族とも向き合いながら支援の方向性を決めている。	ご本人様の目線で物事を考え、困り感を共有する為、日々会議や声掛け等を行い、全ての支援者が同じ方向性をもって支援できるように取り組んでいる。	学校等での出来事を振り返り、ご家庭や学校等の先生等にアプローチしていく。また、振り返りの際に困り感などがあれば再度、観察を試み方向性を整えていく。
2	個々の児童のアセスメントを適切に行っている事で、課題を客観的に分析した上で職員全体で会議をしながら充実を図っている。	常に児童の事に対して、不明な点や困り感があれば職員間で共有し、よりよい支援につながるよう会議を開く事ができる。	必要があれば都度、学校でも会議を持つなどして、保護者だけではなく学校等の職員とも共有を図り児童が安心して登校できるように支援できるよう促す。
3	様々な学校等とのつながりがあり、先生方が異動しても、別の学校等で再開するなどして、お互いが知り合いとして共有でき、都度話し合うことが出来る。	学校等の担任の先生だけでなく、児童を知っている先生方には都度声掛けを行っている。児童が話出来る大人をどれだけ増やすことが出来るかを目的にしている。	学校等間での会議の中で、それぞれのやり方はあるものの、良い支援に対しては共有できるように勤めたり会話の中で話を出したりすることが出来る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所等訪問支援を開始できていない。	保護者の皆様が保育所等訪問支援事業をご存じない方が多いことや、学校での困り感の共有が出来ていない。	保育所等訪問支援が必要である児童の保護者へ、支援の内容を説明し利用を促していく。
2	保護者会が無い事で保護者間の共有する悩みや知り合いの輪を広げるとい事が少ない。	今年度までは土日祝は事業所が閉まっており、職員の人数も限られていたため児童がいる時間帯ではなかなか保護者会等開くことが出来なかった。	次年度から土曜日も開所する為、土曜日に保護者参加型のイベントを設け、保護者や地域を巻き込んだ活動が出来るよう工夫していく。
3	年間計画を通して安全面を大々的に保護者にも児童にも周知できるようにしたい。	年間計画や防災訓練、避難訓練、活動内容などをその都度周知しているが、保護者に行き届いていない様子が確認できた。日々の会話の中でご家庭へ伝えたり、メールや広報誌などでもお知らせはしているが、送迎でお会いできない保護者には足りなかった。	年間計画、その他、大事な計画や報告は送迎時以外でも、周知してもらえるようどんどん話していく。また、メール以外でもお知らせなど広報活動に取り組み、取りこぼしなくお伝えできるようにしたい。